

林町事務所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 空港跡地遺跡 (中林地区)

2024年5月

(株) ホンダ パーツ 西南  
高松市教育委員会

空港跡地遺跡  
(中林地区)

二〇二四年五月

(株) ホンダ パーツ 西南  
高松市教育委員会

## 例 言

1. 本報告書は、林町事務所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書であり、高松市林町に所在する空港跡地遺跡（中林地区）の報告を収録した。
2. 発掘調査地及び調査期間、調査面積は下記のとおりである。  
調 査 地：高松市林町字中林 429 番 1  
調査期間：令和 5 年 3 月 29 日～5 月 23 日  
調査面積：約 730 m<sup>2</sup>
3. 発掘調査は、高松市創造都市推進局文化・観光・スポーツ部文化財課文化財専門員 梶原 慎司及び同課会計年度任用職員 磯崎 福子が担当し、整理作業は梶原が担当した。
4. 本報告書の執筆及び編集は梶原が担当した。
5. 本報告書の標高は東京湾平均海面高度を基準とし、図中の方位は座標北を表す。
6. 遺構断面の注記の色調及び土器観察表の色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖 36 版』を参照した。
7. 本報告書の挿図として、高松市都市計画図 2,500 分の 1「No. 55, 63」を一部改変して使用した。
8. 発掘調査で得られた全ての資料は、高松市教育委員会で保管している。

# 目 次

## 第 I 章 調査の経緯と経過

- 第 1 節 調査の経緯・・・・・・・・・・ 1
- 第 2 節 調査の経過・・・・・・・・・・ 1

## 第 II 章 地理的・歴史的環境

- 第 1 節 地理的環境・・・・・・・・・・ 2
- 第 2 節 歴史的環境・・・・・・・・・・ 2

## 第 III 章 調査の成果

- 第 1 節 調査方法・・・・・・・・・・ 4
- 第 2 節 基本層序・・・・・・・・・・ 4
- 第 3 節 包含層・・・・・・・・・・ 4
- 第 4 節 遺構・遺物・・・・・・・・・・ 11

## 第 IV 章 まとめ・・・・・・・・・・ 21

# 挿 図 表 目 次

第 1 図 調査位置図・・・・・・・・・・ 1	第 12 図 SR01 の分布範囲・・・・・・・・ 13
第 2 図 高松平野と遺跡の位置・・・・・・ 2	第 13 図 SR01 西側壁面土層図・・・・・・ 14
第 3 図 周辺の主要遺跡分布図・・・・・・ 3	第 14 図 SR01 出土遺物・・・・・・・・・・ 15
第 4 図 遺構配置図・・・・・・・・・・ 5	第 15 図 ピット出土遺物・・・・・・・・・・ 16
第 5 図 調査区西側土層図①・・・・・・・・ 6	第 16 図 SB01 平・断面図と出土遺物・・・・ 17
第 6 図 調査区西側土層図②・・・・・・・・ 7	第 17 図 SB02, 03 平・断面図と出土遺物・・ 18
第 7 図 包含層の分布範囲・・・・・・・・ 8	第 18 図 SD03 平・断面図・・・・・・・・ 19
第 8 図 包含層出土遺物①・・・・・・・・ 9	第 19 図 遺構検出・攪乱出土遺物・・・・ 20
第 9 図 包含層出土遺物②・・・・・・・・ 10	第 1 表 土器観察表①・・・・・・・・・・ 22
第 10 図 SK01 平・断面図と出土遺物・・・・ 11	第 2 表 土器観察表②・・・・・・・・・・ 23
第 11 図 SD01, 02 平・断面図・・・・・・ 12	第 3 表 石器観察表・・・・・・・・・・ 23

# 写 真 図 版 目 次

図版 1 SB01-SP03 底面石臼検出状況	SK01 出土遺物
図版 2 調査区北側完掘状況	図版 7 SB01-SP08 断面
調査区南側完掘状況	SB02-SP06 断面
図版 3 SR01 断ち割りトレンチ完掘状況	SD01 完掘状況
SR01 西側壁面土層	SD01 断面
図版 4 包含層出土須恵器	SD02 完掘状況
包含層・SR01 出土弥生土器	SD02 断面
図版 5 SD01 出土ミニチュア土器	SD03 完掘状況
SR01 出土石器	SD03 断面
包含層・遺構検出・攪乱出土石鏃	図版 8 近世ピット群完掘状況①（北東から）
図版 6 SK01 完掘状況	近世ピット群完掘状況②（東から）
SK01 断面	近世ピット群出土遺物

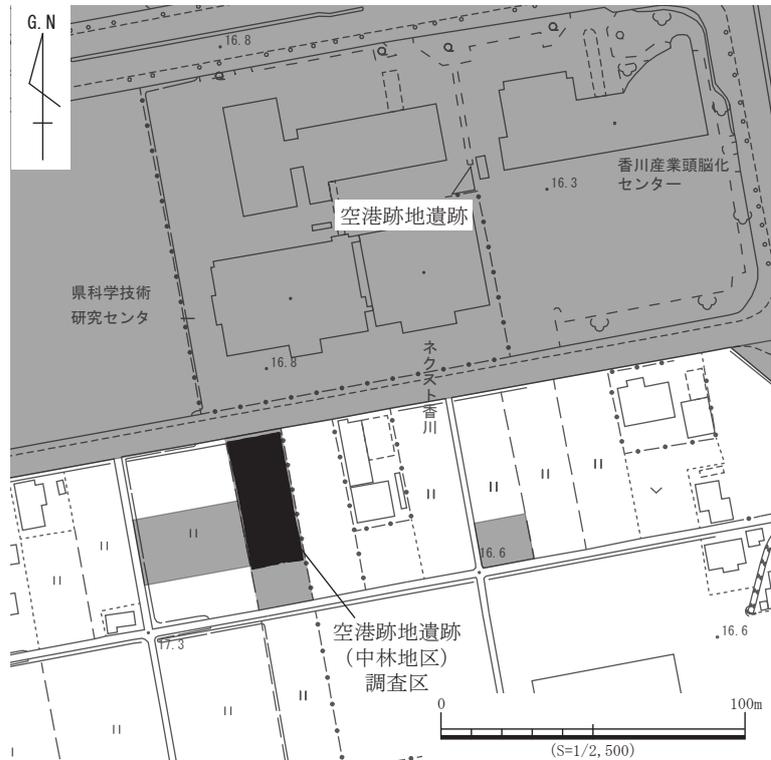
# 第 I 章 調査の経緯と経過

## 第 1 節 調査の経緯

当該地での事務所建設工事計画に際し、事業者から高松市教育委員会（以下、市教委）に対し埋蔵文化財包蔵地の照会があった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「空港跡地遺跡」に隣接することから、令和 4 年 10 月 25 日付けで埋蔵文化財の試掘調査依頼が提出された。同年 10 月 27 日に試掘調査を実施した結果、当該地で遺構・遺物を確認したことから、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「空港跡地遺跡」の範囲に追加登録された。

その後、事業者から令和 5 年 2 月 8 日付けで文化財保護法第

93 条第 1 項に基づく発掘届出が提出され、市教委から香川県教育委員会（以下、県教委）へ進達したところ、2 月 9 日付けで工事着手前に発掘調査を実施するよう行政指導があった。これを受けて市教委は事業者と協議を行い、発掘調査を実施し記録保存を行うことで合意し、令和 5 年 3 月 6 日付けで埋蔵文化財調査協定書を締結した。これに基づき市教委は発掘調査を実施した。



第 1 図 調査区位置図 (S=1/2,500)

## 第 2 節 調査の経過

発掘調査は令和 5 年 3 月 29 日から開始し、5 月 23 日に終了した。調査地が狭小だったため、北工区と南工区に分割して調査を行った。調査の主な工程は以下のとおりである。

- |                    |                             |
|--------------------|-----------------------------|
| 3 月 28 ～ 31 日      | 道具の搬入、北工区の重機掘削、遺構検出         |
| 4 月 1 ～ 10 日       | 遺構掘削（主に近世のピットを掘削）、図化作業、写真撮影 |
| 4 月 11 ～ 14 日      | 北工区の埋め戻し、南工区の重機掘削、遺構検出      |
| 4 月 17 ～ 21 日      | 包含層の掘削                      |
| 4 月 21 日～ 5 月 12 日 | 遺構掘削（主に SR01 の掘削）、図化作業、写真撮影 |
| 5 月 15 ～ 23 日      | 南工区の埋め戻し、撤収作業               |

整理作業は令和 6 年 2 月 1 日から開始し、同年 5 月 31 日に終了した。

## 第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

### 第1節 地理的環境

高松市は香川県の中央やや東寄りに位置し、市域の大部分は讃岐平野の一部を形成する高松平野が広がっている。高松平野は、讃岐山脈より流れ出た諸河川が運んだ土砂によって形成された沖積平野である。現在高松平野には、東から新川、春日川、詰田川、御坊川、石清尾山山塊を挟み香東川、本津川が北流しているが、中でも香東川が平野の形成に最も大きな影響を及ぼしている。現在の香東川は近世初頭に生駒家の家臣西嶋八兵衛によって改修されたものであり、かつては石清尾山塊の南麓から平野中央部を東北流する主流路が存在していた。この旧流路は、現在では水田地帯及び市街地の地下に埋没してしまっているが、空中写真等から、林から木太地区にかけての分ヶ池、下池、長池、大池、旧ガラ池を結ぶ流路等数本の旧河道が知られており、発掘調査でもその痕跡が確認されている。なお、17世紀の廢川直前の流路は、御坊川として今でもその名残りを留めている。



第2図 高松平野と遺跡の位置

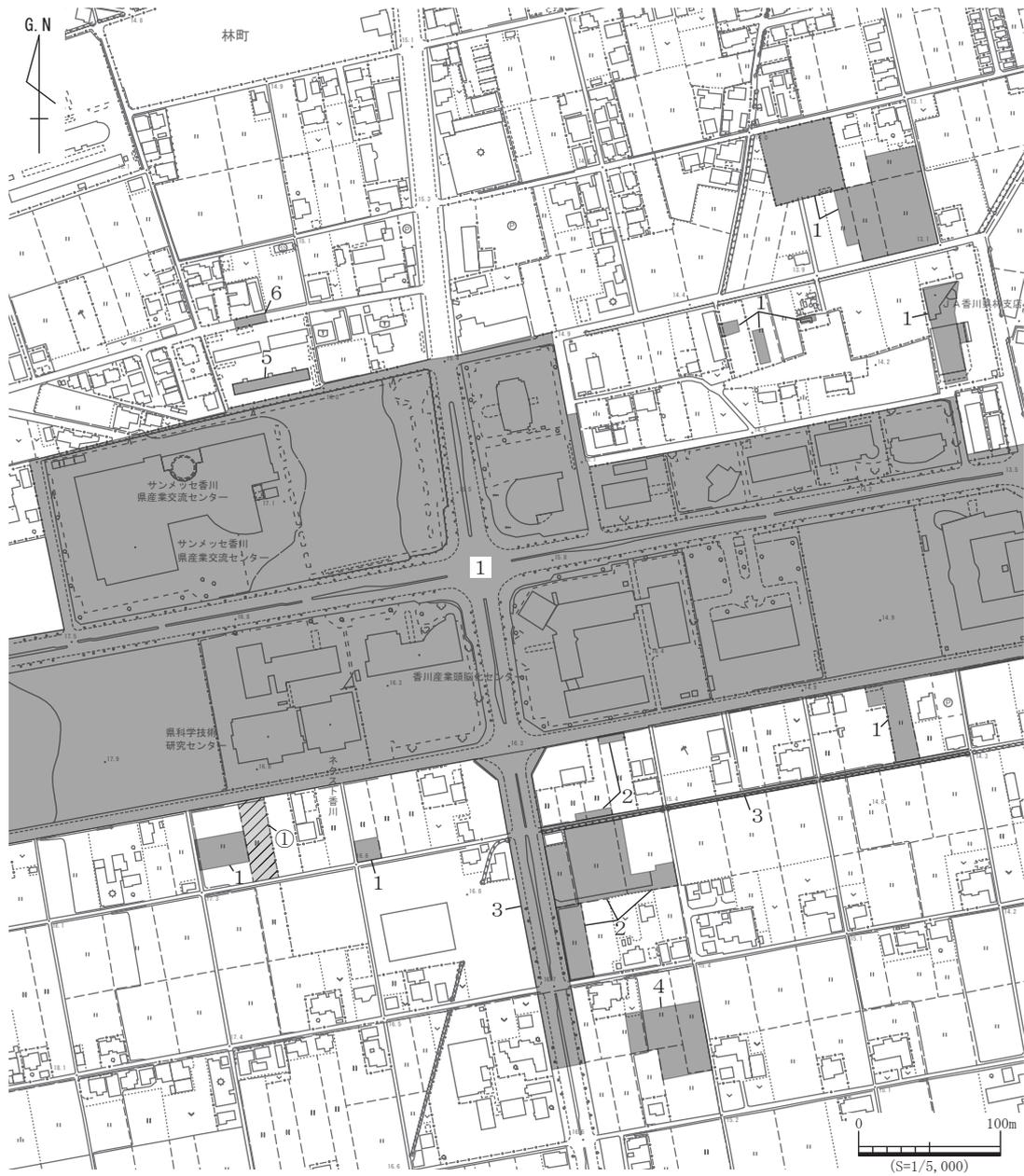
高松平野を流れる諸河川は、南の讃岐山脈から平野への流入口で穏やかな傾斜を持つ扇状地形の沖積平野を形成し、農耕に適した地味豊かな土壌をもたらしたが、諸河川の中流域は伏流し、表層は涸れ川になることが多く、早くからため池を築造して水不足を解消してきた。これらのため池は、年間1,000ミリ前後と降水量の乏しい讃岐平野において農業用水確保のために不可欠なものである。

今回発掘調査を行った空港跡地遺跡については、香川県教育委員会が行った空港跡地整備事業に伴う発掘調査で東西に広範囲にわたって調査がなされており、地形や遺構分布に関する情報が得られている。また、蔵本晋司氏が空港跡地遺跡内の地形についてまとめており（蔵本1997）、そちらを御参照願いたい。

### 第2節 歴史的環境

高松平野では大規模開発事業の事前調査により、遺跡数が飛躍的に増加した。特に、今回の調査地周辺域においては、空港跡地整備事業に伴う発掘調査により得られた成果は大きい。

空港跡地遺跡周辺の歴史的環境については、高松市教育委員会編2020に詳しく記載されており、そちらを御参照願いたい。また、本書第Ⅳ章で調査地周辺の弥生時代および古代の遺構分布状況については述べる。



①：空港跡地遺跡（中林地区） 1：空港跡地遺跡 2：中林遺跡 3：上林遺跡 4：竹部遺跡 5：公務員宿舍遺跡  
6：林宗高遺跡

第3図 周辺の主要遺跡分布図 (S=1/5,000)

### 参考文献

高松市教育委員会編 2020『六条下所遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第207集

蔵本晋司 1997「まとめ」『空港跡地遺跡Ⅱ』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社

## 第三章 調査の成果

### 第1節 調査方法

調査は、建物基礎部分を対象とした。発掘調査は表土から遺構面までを重機により掘削、その後人力により遺構面を精査し遺構掘削を行った。包含層は遺物を多く含んでいたため、人力により掘削を行った。

記録に際しては基準点を基に1/20縮尺で平面図及び断面図を作図した。写真撮影はデジタル一眼レフカメラを用いたほか、補助的にコンパクトデジタルカメラを用いた。

### 第2節 基本層序

基本層序は大きく3つに分かれる。Ⅰ層は耕作土・床土で、約0.3～0.4m堆積している(第5,6図1～9層)。Ⅱ層は灰黄褐色シルト層で、弥生時代後期から古代までの遺物を含む包含層である(第5,6図10層)。Ⅱ層は対象地中央部から南部にかけて分布し(第7図)、主にSR01の上に堆積している。最も厚い箇所では約0.3m堆積している。Ⅲ層はにぶい黄橙色シルト層で、地山である(第5,6図11層)。

遺構検出はⅢ層上面で行った。遺構面の高さは北端が14.55m、南端が14.45mである。

### 第3節 包含層

包含層は調査区中央部から南部にかけて分布する(第7図)。SR01が埋没し、周辺よりやや低い箇所に堆積した層で、弥生時代後期から古代の遺物を含む。最も厚い箇所では約0.3m堆積している。包含層からは多量の土器片・須恵器片とサヌカイト製石器・剥片が出土した。

#### 出土遺物(第8,9図)

1～13は須恵器の杯蓋である。器形は扁平で、口径は約15～16cmである。1～4は摘みが残っているもので、摘みの形態は頂部がやや尖る扁平な擬宝珠形のもの(1)と頂部が扁平なもの(2～4)がみられる。5～13は口縁部が残存しているものである。口縁端部が短く内側に折れ断面形状がコ字になるもの(5・6・10)、口縁端部が強く下方に屈曲し、強くナデられ断面形状が三角形になるもの(7～9)、口縁端部が強く下方に屈曲し、弱くナデられ断面形状が半円形になるもの(11・12)、口縁端部が短く外側に折れ断面形状がコ字になるもの(13)がみられる。

14～16は須恵器の杯身の口縁部である。14は5世紀後半～6世紀初頭、15・16は6世紀後半～7世紀初頭のものである。

17・18は須恵器の高台付杯である。口径は約14cm、底径は約10～11cmである。高台部は貼り付けられており、断面形状は方形である。19～27は杯である。19は口径が約10cmと小さく、出土した杯のなかでは古相である。20は口径約12cm、器高3.7cmで器壁がやや厚い。21・22は口径約13cm、器高約3cmで器壁がやや薄い。また、20・24の外表面は上半部と下半部

X=143585

Y=524655

Y=524660

Y=524665

Y=524670

Y=524675

X=143580

X=143575

X=143570

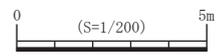
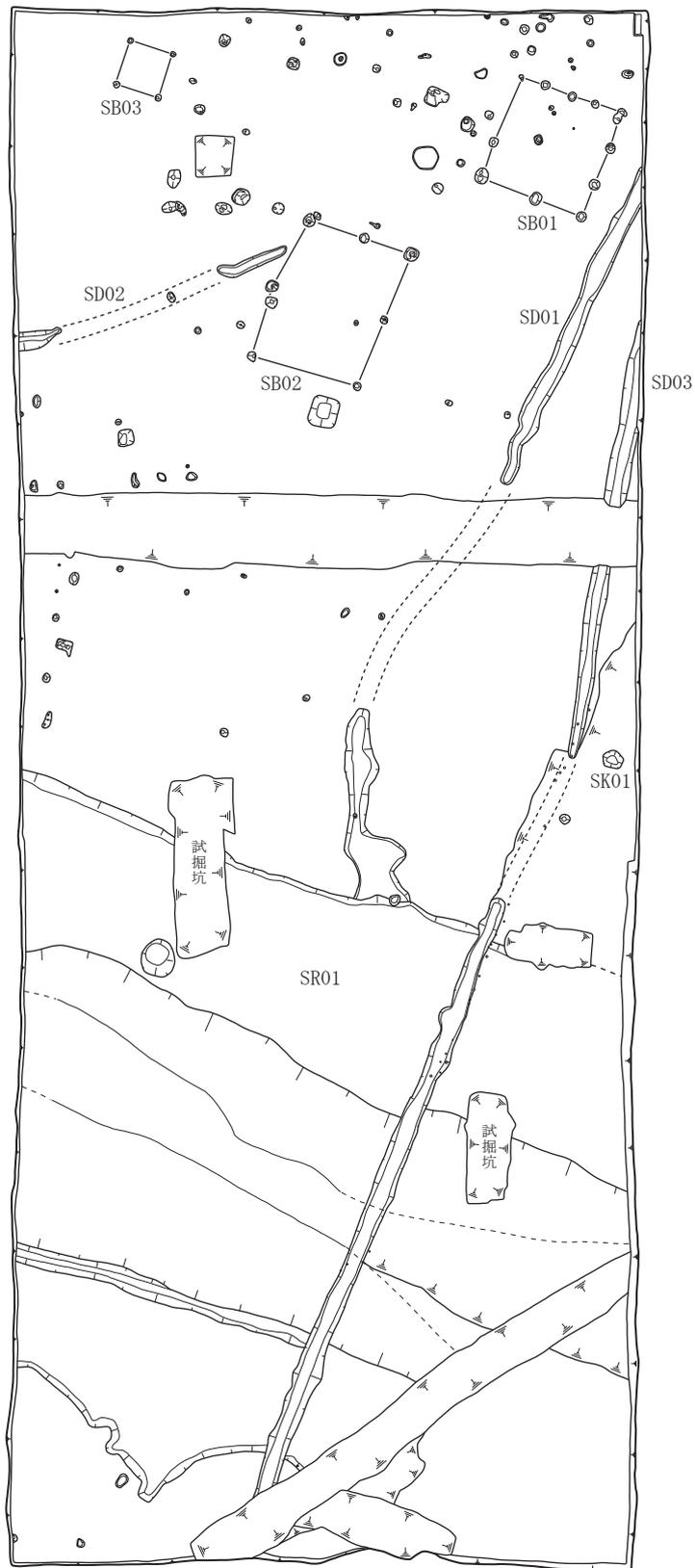
X=143565

X=143560

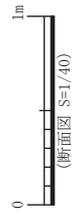
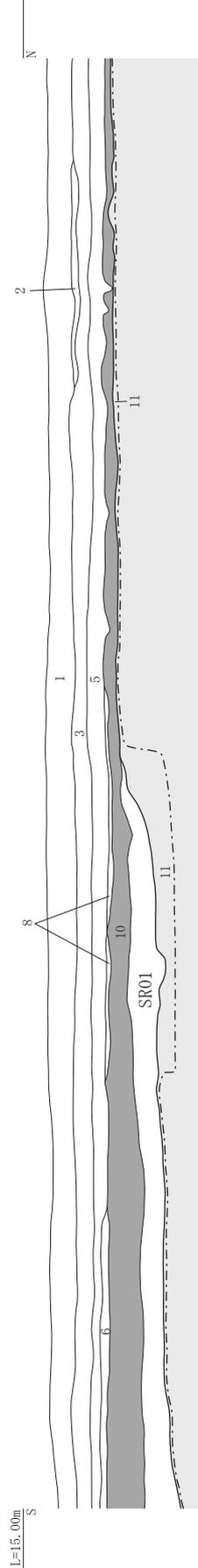
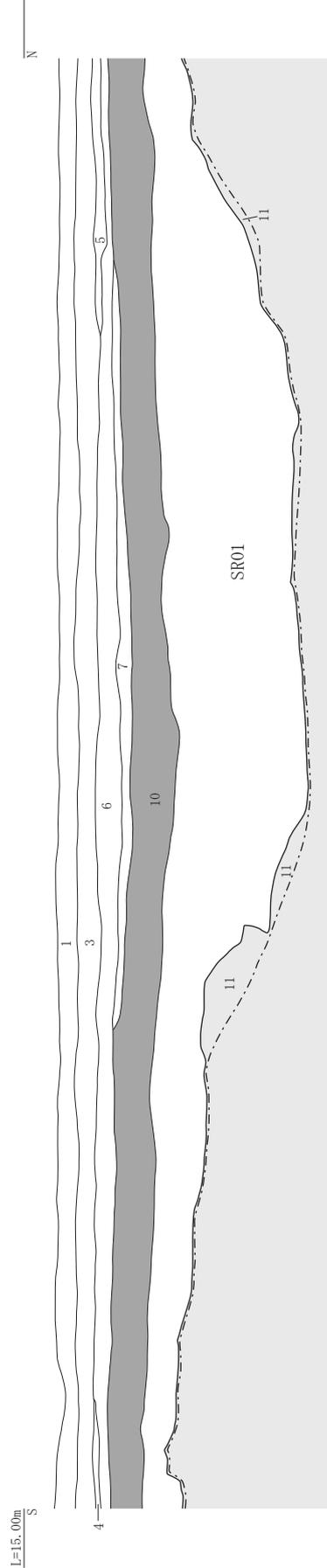
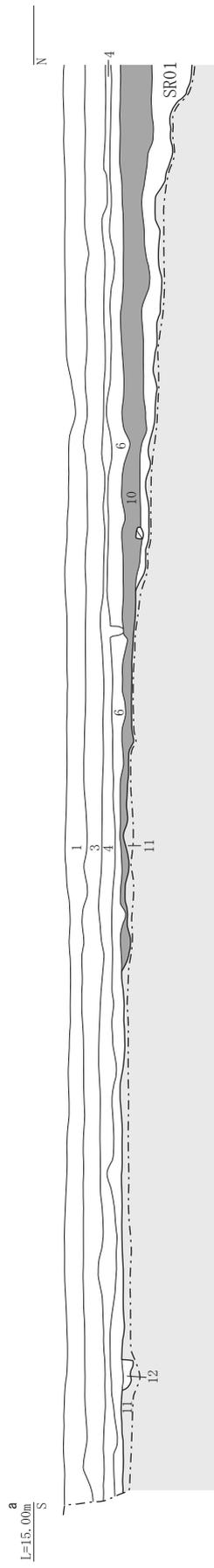
X=143555

X=143550

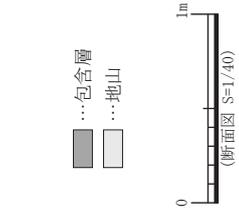
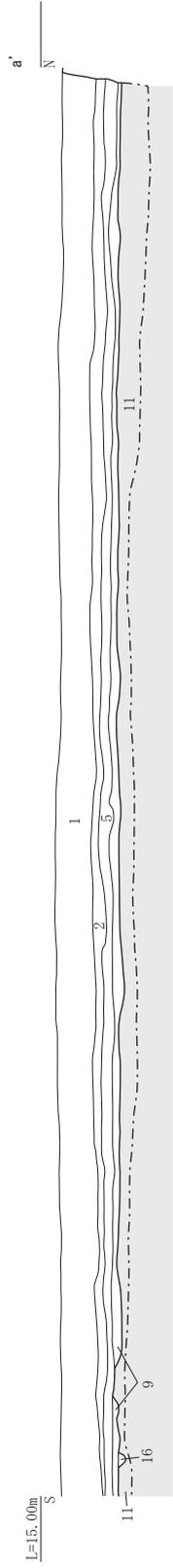
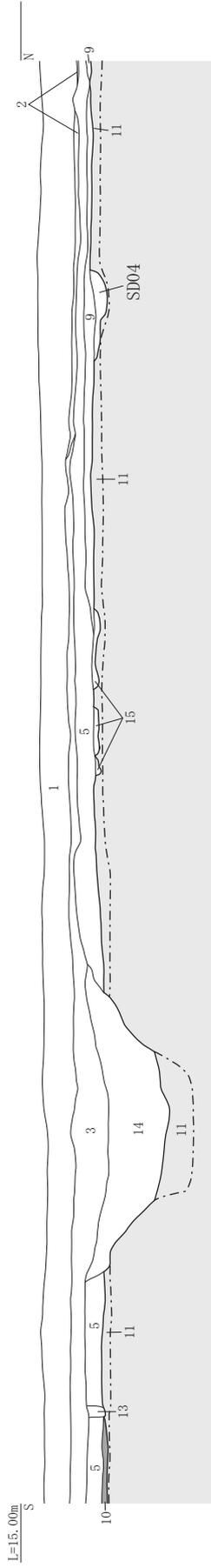
X=143545



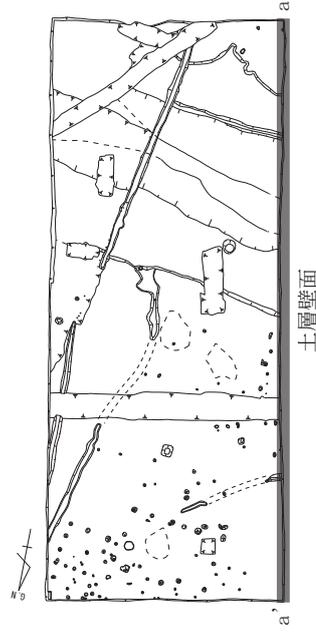
第4図 遺構配置図 (S=1/200)



第5図 調査区西側土層図① (S=1/40)



- 1. 耕作土
- 2.
- 3.
- 4.
- 5. 床土
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10. 10YR4/2 灰黄褐シルト (弥生後期～古代の包含層)
- 11. 10YR6/4 にぶい黄橙シルト (地山)
- 12. 10YR5/3 にぶい黄褐シルト
- 13. 10YR5/2 灰黄褐シルト
- 14. 10YR3/2 黒褐シルト (小礫含む) (現代の溝)
- 15. 10YR4/2 灰黄褐シルト
- 16. 7.5YR3/2 黒褐シルト



第6図 調査区西側土層図② (S=1/40)

X=143585

Y=52655

Y=52660

Y=52665

Y=52670

Y=52675

X=143580

X=143575

X=143570

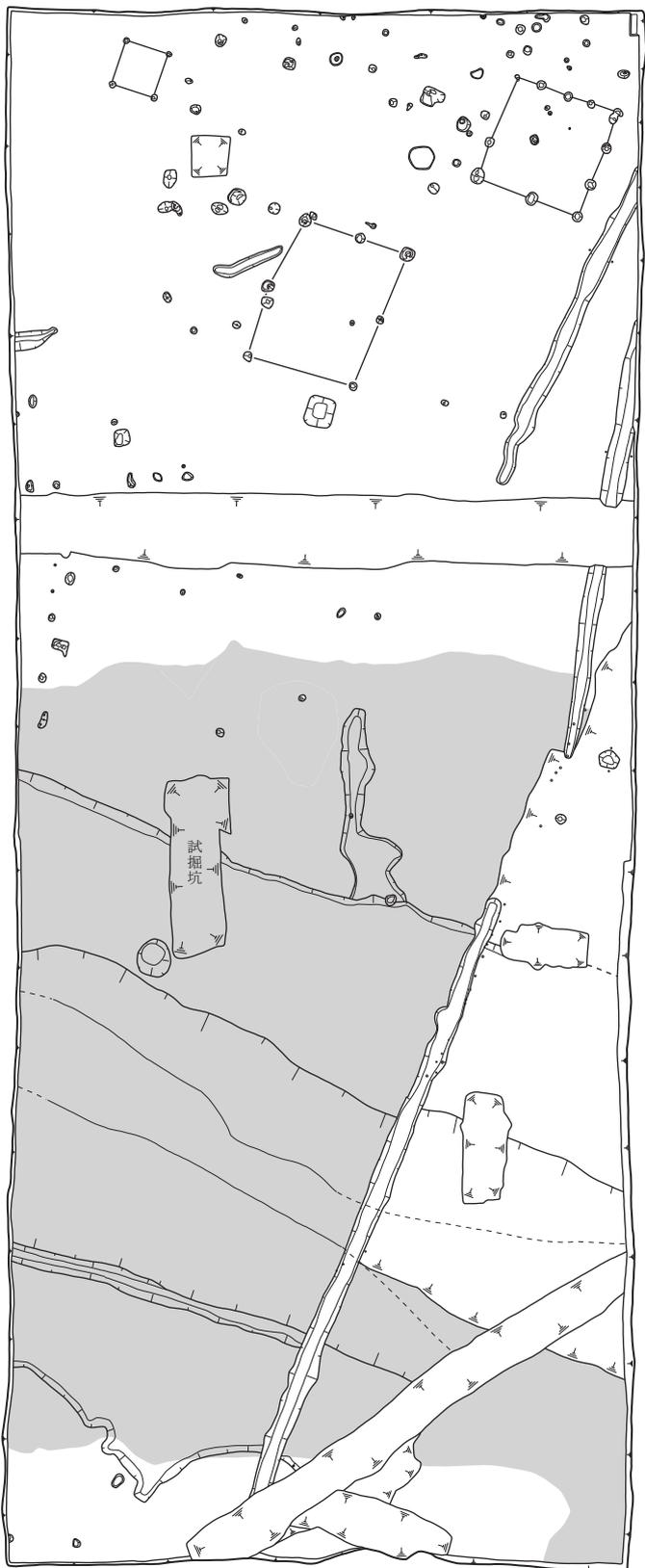
X=143565

X=143560

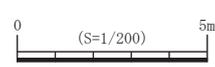
X=143555

X=143550

X=143545

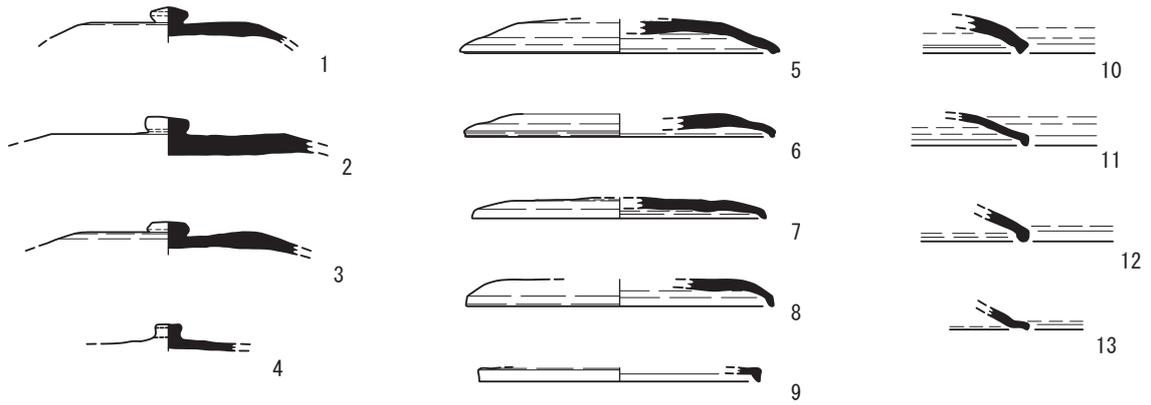


●●●●● 包含層の  
分布範囲



第7図 包含層の分布範囲 (S=1/200)

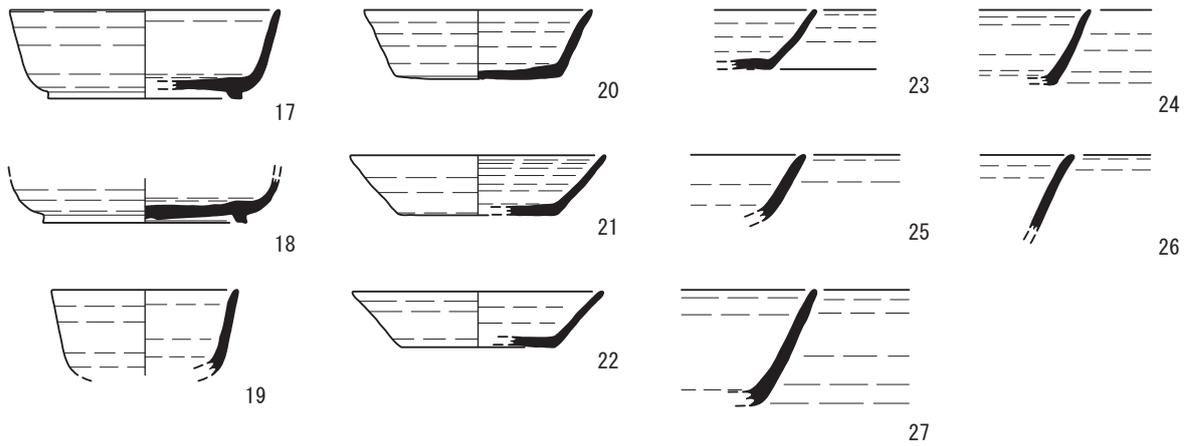
杯蓋



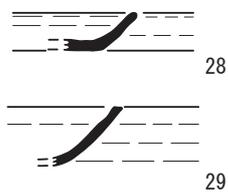
杯身



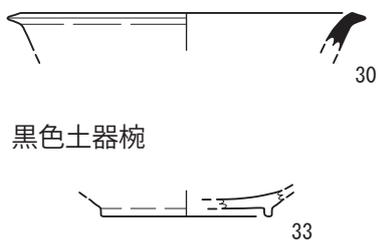
杯



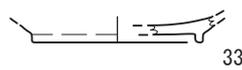
皿・盤



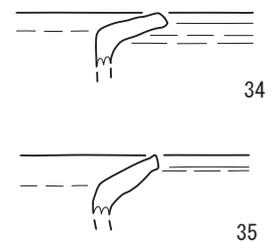
壺



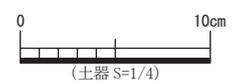
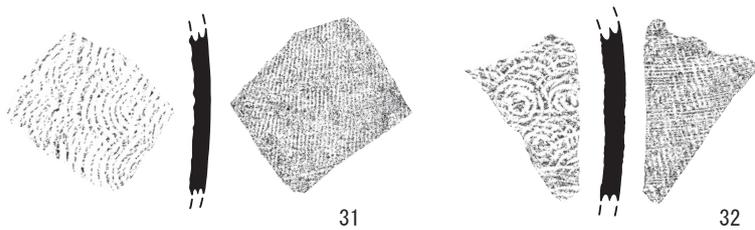
黑色土器碗



土師器甕



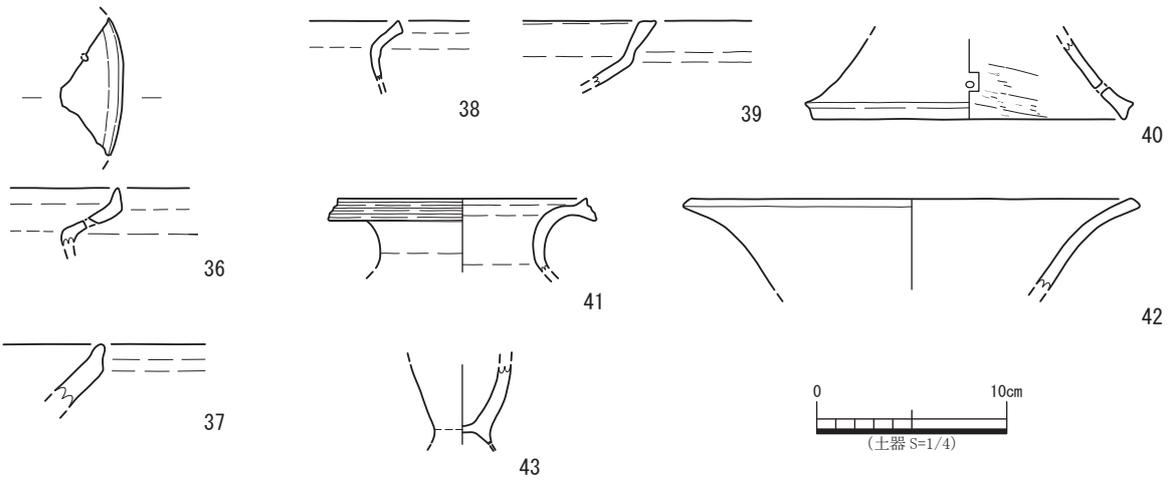
甕



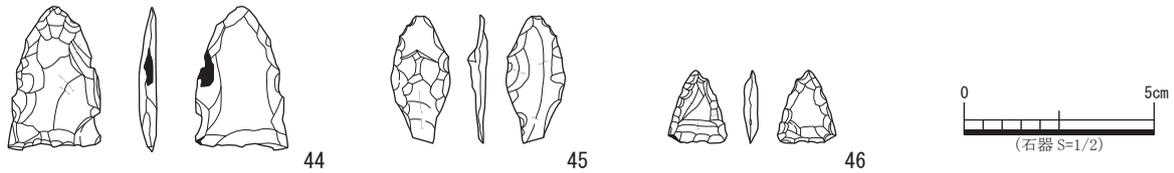
第8図 包含層出土遺物① (S=1/4)

土師器 土釜

弥生土器



石器



第9図 包含層出土遺物② (S=1/4・1/2)

の色調が異なることから、重ね焼きの痕跡と考えられる。20～24は内外面に火ダスキ状の痕跡が認められる。27は大型の杯である。

28は須恵器の皿である。29は口径が約25cmと想定され杯よりも大きいこと、器高が約3cmと皿よりも高いこと、口縁端部がナデられ面取りされていることから須恵器の大型の盤と考えられる。

30は須恵器の壺の口縁部である。31・32は須恵器の甕の胴部片である。外面に縦方向のタキ痕、内面に青海波文の当て具痕がみられる。33は黒色土器A類の椀の底部である。

34・35は土師器の甕の口縁部である。36・37は土師器の土釜の口縁部である。

38～43は弥生時代後期の土器である。38は甕の口縁部である。39・40は香東川下流域産土器の高杯である。41・42は壺の口縁部で、41は香東川下流域産土器である。43は製塩土器の胴部である。

44～46はサヌカイト製の石鏃である。44は大型の平基式である。

**所属時期** SR01が埋没した弥生時代後期から12世紀頃までの幅広い時期の遺物を含む。そのなかでも8世紀後葉～9世紀中頃の須恵器が多く出土している。また、数点出土している土師器は須恵器よりも時期が下り10～12世紀頃の所産であり、包含層の形成時期の下限と考えられる。

## 第4節 遺構・遺物

### (1) 弥生時代後期

#### SK 01 (第10図)

調査区中央部東端の攪乱下で検出した土坑である。平面形状は円形で、長軸 0.57 m、短軸 0.48 m、深さ 0.22 m である。断面は半円状で、埋土は黒褐色シルトの単層である。遺構からは、弥生時代後期の土器片とサヌカイト製剥片が出土した。

**出土遺物** 47 は香東川下流域産系土器の甕である。

**所属時期** 出土遺物から弥生時代後期である。

#### SD 01 (第11図)

調査区北部から中央部の東側で検出した南北方向の溝で、幅約 0.5～0.6 m、深さ約 0.05 m である。断面は台形状で、埋土は灰黄褐色細粒砂～シルトの単層である。底面の高さは北側の方が高く南側が低くなっており、SR01 と合流することから北から南に向かって流れる排水溝と考えられる。遺構からは、弥生土器片が約 10 点出土した。

**所属時期** 出土遺物および SR01 に接続することから弥生時代後期である。

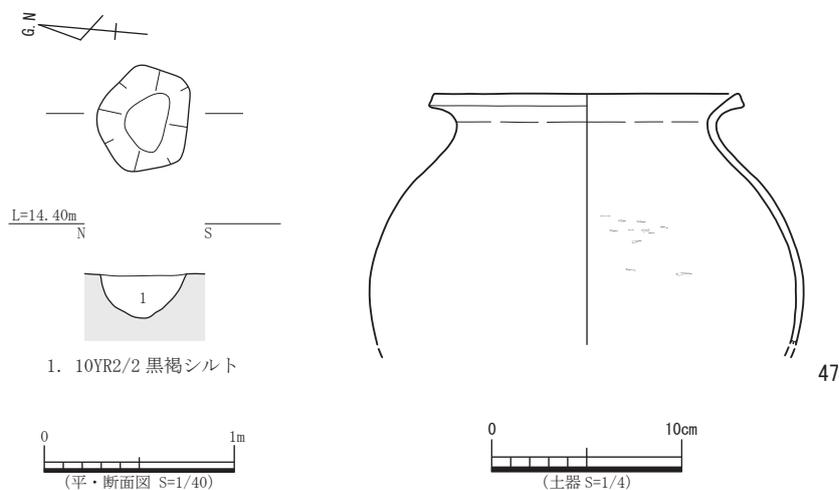
#### SD 02 (第11図)

調査区北部西側で検出した南西—北東方向の溝で、幅約 0.5 m、深さ約 0.08 m である。断面は半円状で、埋土は暗褐色シルトの単層である。底面の高さはほとんど変わらない。SD01 に形態と埋土が類似していることから、同様の性格の遺構と考えられる。遺構からは、弥生土器片が 2 点出土した。

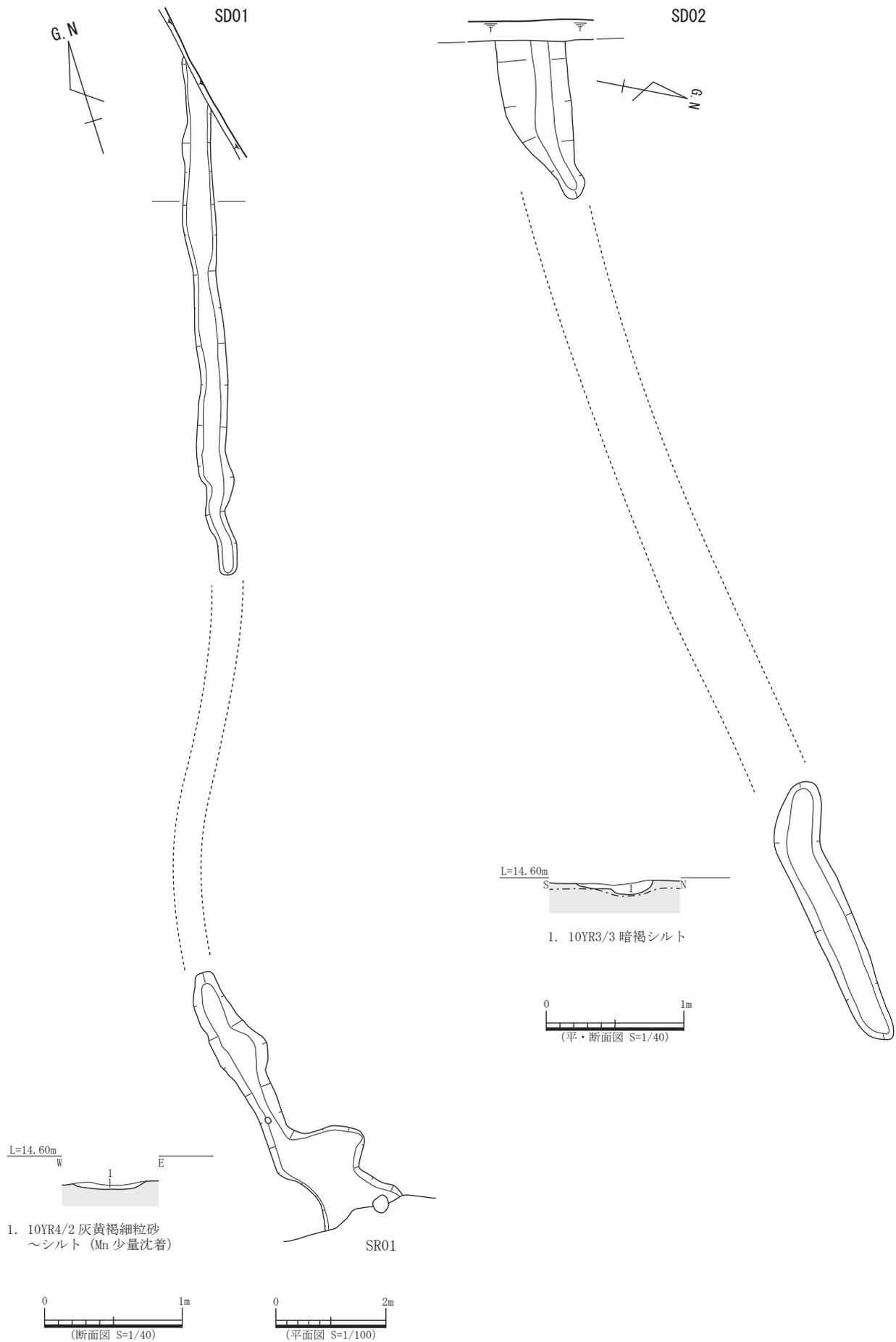
**所属時期** 出土遺物および SD01 に類似することから弥生時代後期と考えられる。

#### SR 01

調査区中央部から南部で検出した幅約 16 m、深さ約 0.8 m の自然流路である (第12図)。



第10図 SK01 平・断面図 (S=1/40) と出土遺物 (S=1/4)



第 11 図 SD01,02 平・断面図 (S=1/100・1/40)

X=143585

Y=524655

Y=524660

Y=524665

Y=524670

Y=524675

X=143580

X=143575

X=143570

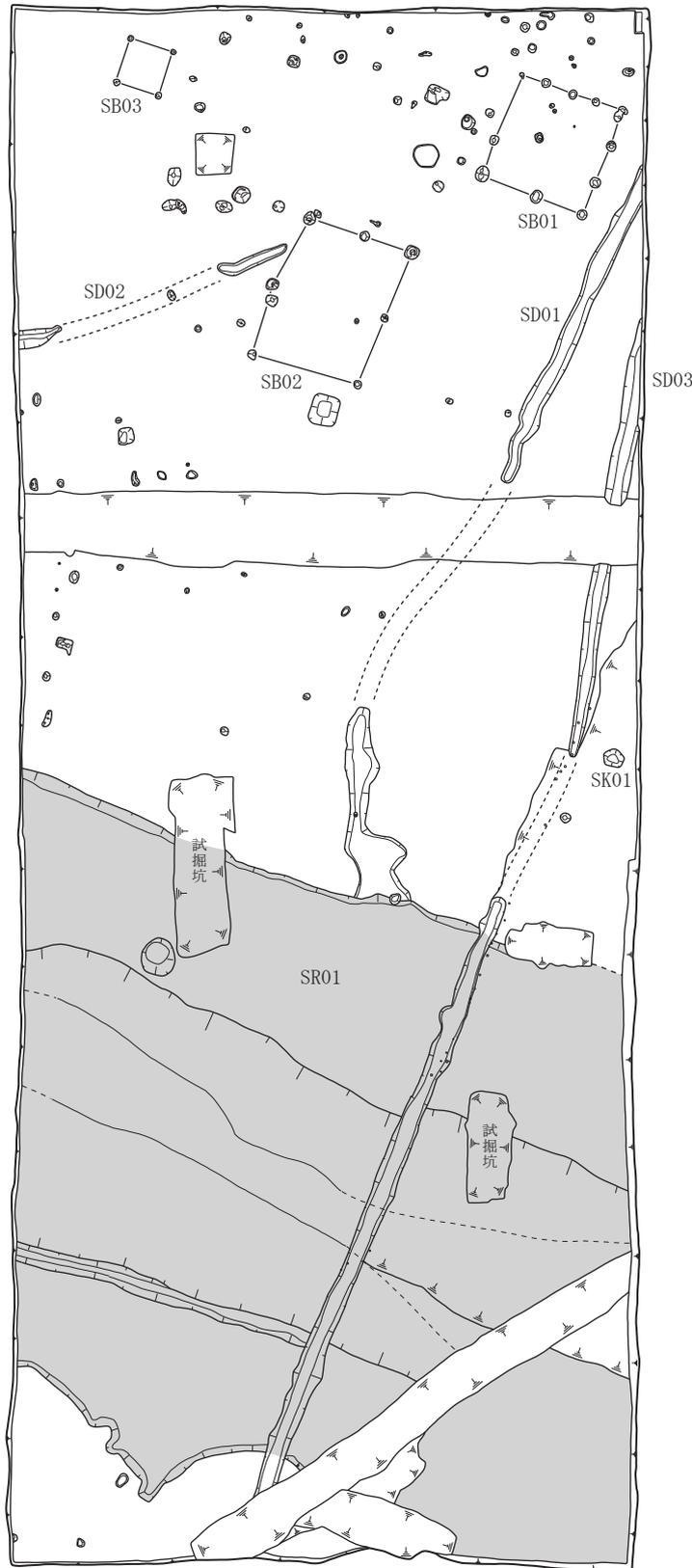
X=143565

X=143560

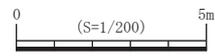
X=143555

X=143550

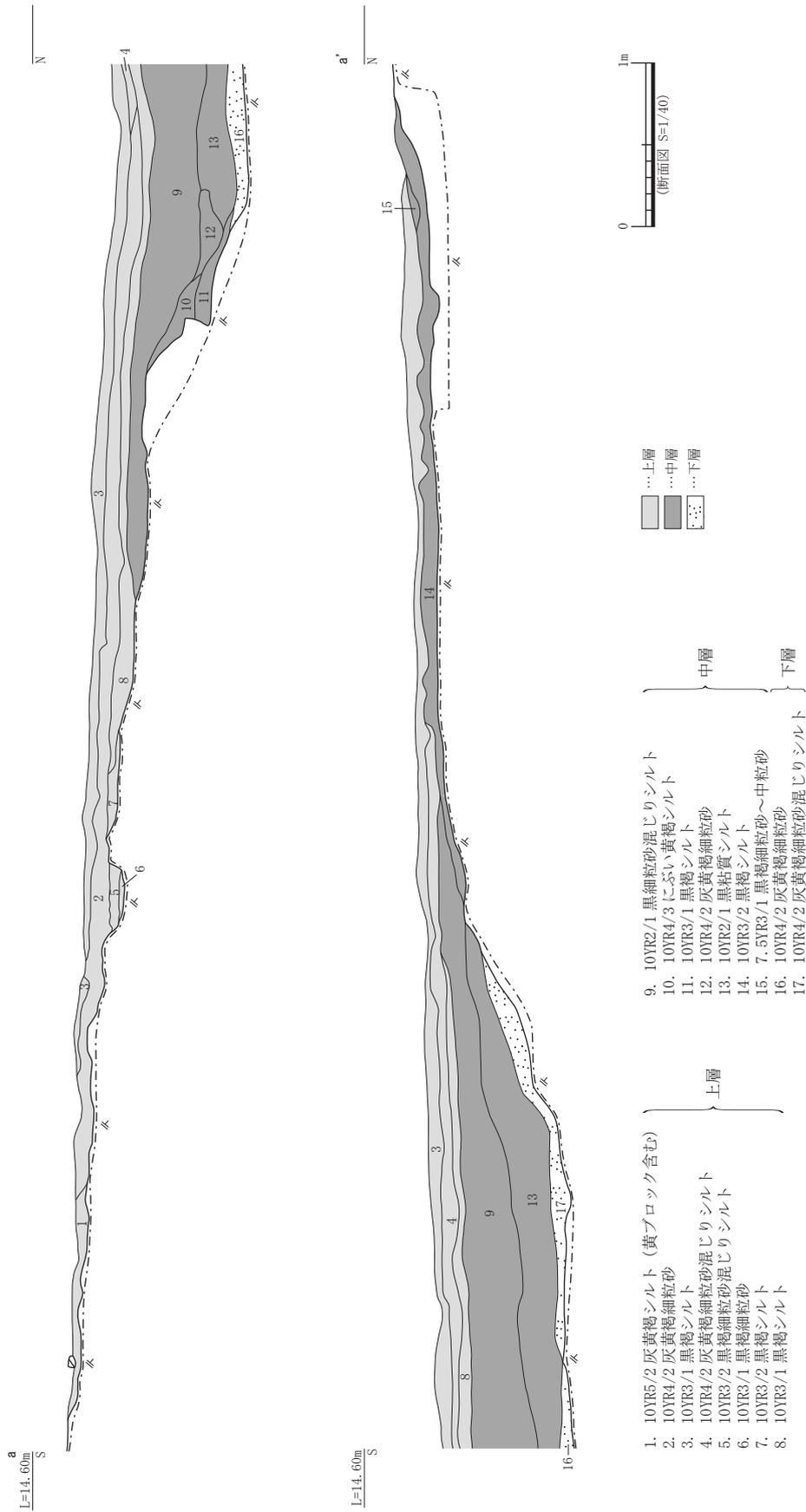
X=143545



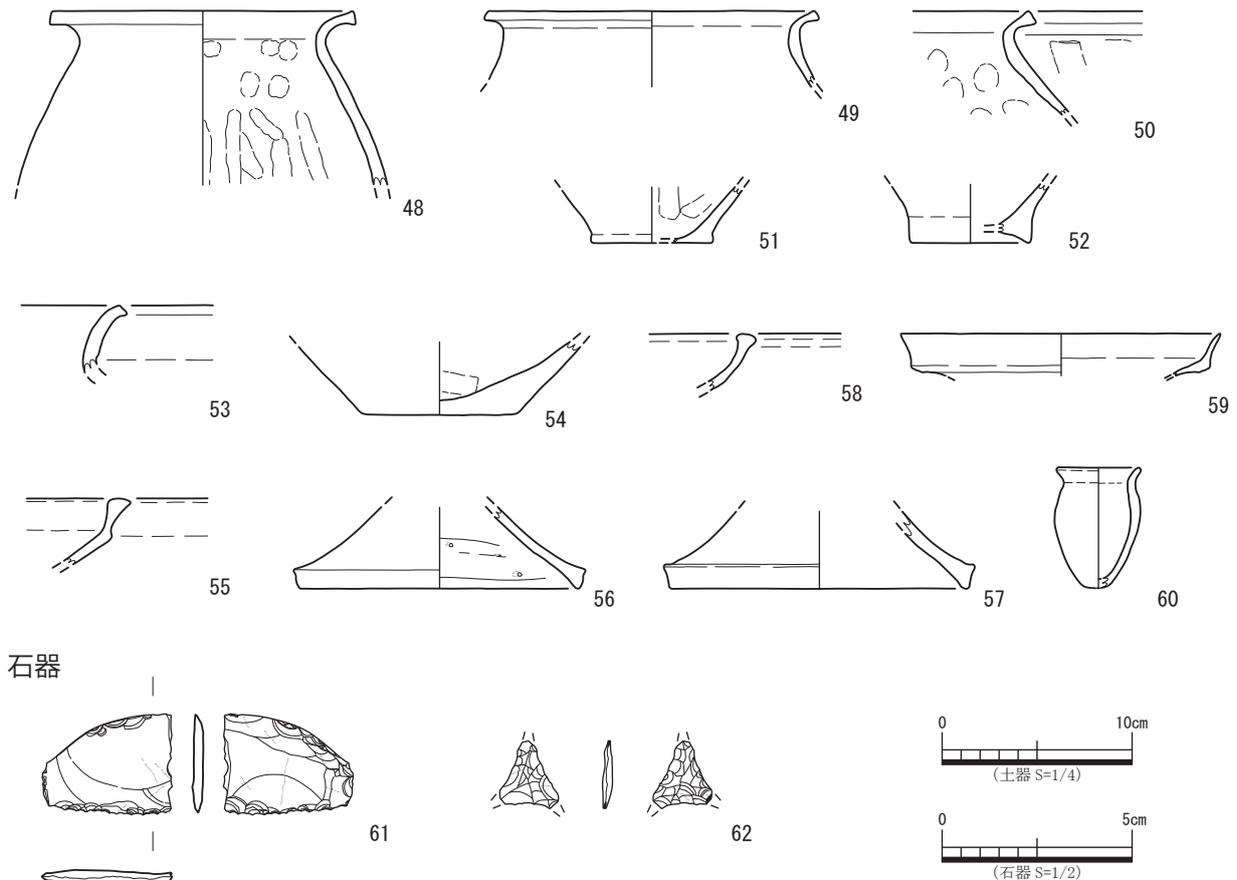
SR01



第 12 図 SR01 の分布範囲 (S=1/200)



第13図 SR01 西側壁面土層図 (S=1/40)



第14図 SR01 出土遺物 (S=1/4・1/2)

東西方向に流れる。流路の北側には北から南に向かって流れるSD01がSR01に合流する。

埋土は上層・中層・下層の三つに大きく分けることができる(第13図)。上層の黒褐色シルト層および灰黄褐色細粒砂混じりシルト～シルト層は約0.2m堆積しており、弥生時代後期の遺物が多く含まれる。中層の黒色細粒砂混じりシルト～粘質シルトは約0.5～0.6m堆積しており、弥生時代の遺物が少量含まれる。下層の灰黄褐色細粒砂～細粒砂混じりシルト層は約0.1m堆積しており、遺物は出土しなかった。

上層は遺物を多く含んでいたため人力掘削を行った。中・下層については西端で幅約1.5mの断ち割りトレンチを設定し、人力による掘削を行った。トレンチは安全性を考慮し、壁から約1.5m離して設置した。その結果、自然流路であること、遺構の深さ、中・下層は遺物をあまり含んでいないことが判明した。自然流路であることと遺物の包含状況を踏まえ予算と日数を考慮し、中・下層については重機で慎重に掘削するという調査方法をとった。

#### 出土遺物(第14図)

48～51は香東川下流域産土器の甕である。52は甕の底部である。53は短頸壺の口縁部である。54は壺の底部である。55～57は香東川下流域産土器の高杯である。58は香東川下流域産土器の鉢である。59は搬入土器で、複合口縁の壺あるいは甕と思われる。60は小型(ミニチュア)土器である。

61はサヌカイト製の石庖丁である。62はサヌカイト製の石鏃である。

所属時期 SR01が埋没したのは、出土遺物から弥生時代後期である。

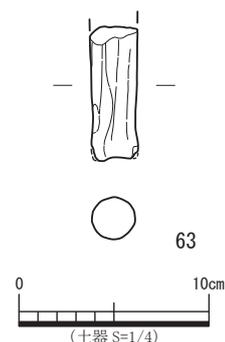
## (2) 近世

### 柱穴（ピット）

調査区北部東側を中心に近世のピットを多数検出した。これらのピットの多くは同様の埋土の色調を呈しており、掘立柱建物を構成する柱穴であると考えられる。高松平野の条里地割の方位はN-10°-E前後であることが知られており、空港跡地遺跡の発掘調査成果では中世前半～後半における建物の方位は条里地割に沿っている（佐藤 2000）。今回検出した近世の掘立柱建物跡の方位はN-7°～12°-Eであるため、近世の建物も条里地割に沿っていることが明らかになった。

ピットからは少量の近世の土師質土器片と陶磁器片および土器片・須恵器片が出土した。

**出土遺物**（第 15 図） 63 は足釜の脚部である。



第 15 図  
ピット出土遺物  
(S=1/4)

### SB 01（第 16 図）

調査区北東端で検出した 3 間×4 間または 3 間×2 間 (3.1 m×3 m) の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-10°-Eであり、条里地割に沿っている。柱間は東西 1.0～1.1 m、南北 0.7～0.8 mまたは 1.4～1.6 mである。ピットの埋土は灰黄褐色シルトである。

SP03 の底面には、割れた石臼が据えられていた。ピットからは陶磁器片と土器片が数点出土した。

**出土遺物** 64 は豊島石製の石臼である。SP03 から出土した。

**所属時期** 出土遺物から近世である。

### SB 02（第 17 図）

調査区北部中央で検出した 2 間×2 間 (4 m×3 m) の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-12°-Eであり、条里地割に沿っている。柱間は東西約 2.0 m、南北 1.4～1.6 mである。ピットの埋土は灰黄褐色シルトおよび暗褐色シルトである。

ピットからは須恵器片と土器片が 2 点出土した。

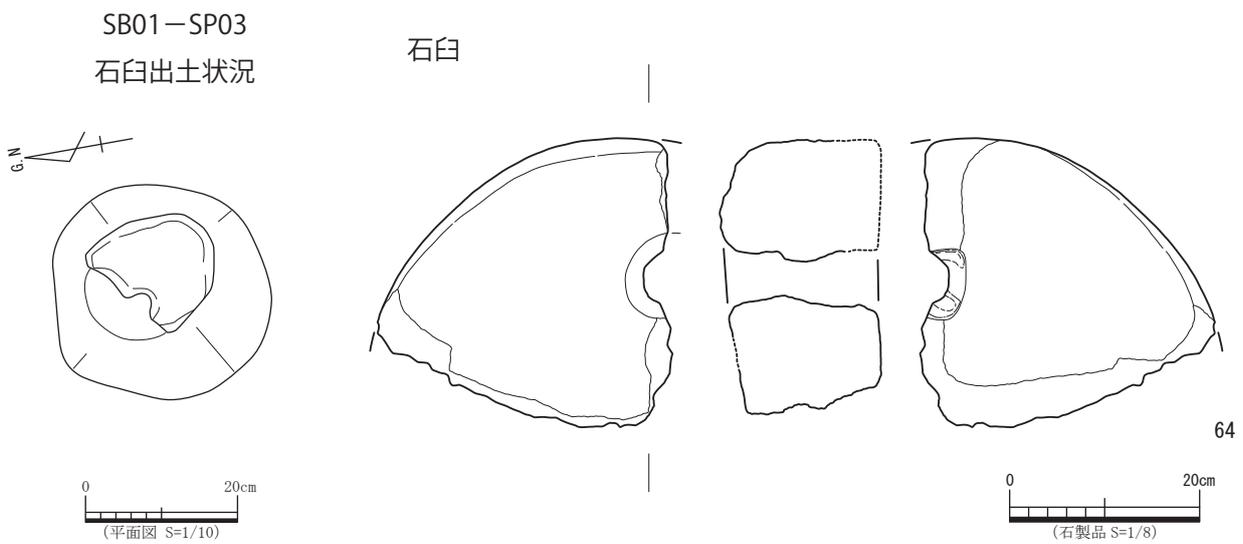
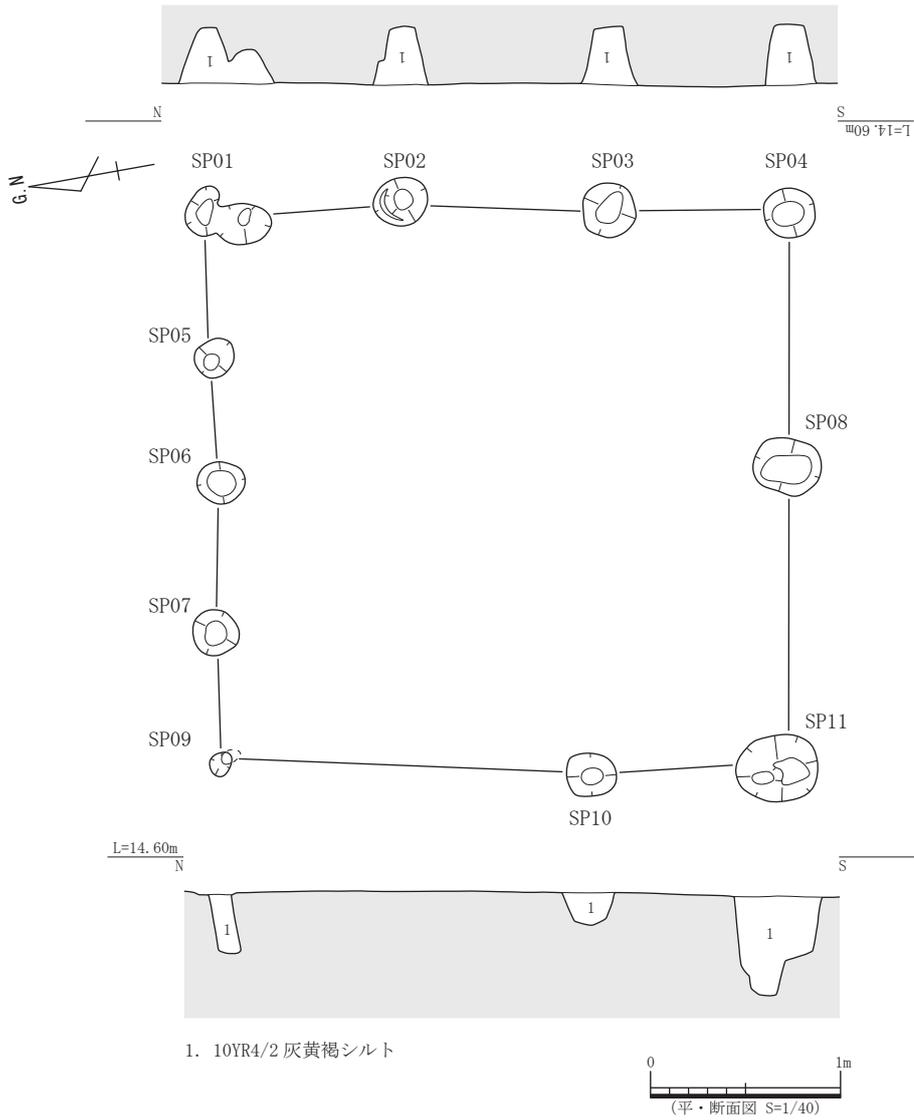
**出土遺物** 65 は須恵器の高台付杯である。SP05 から出土した。包含層に含まれる須恵器群と同時期のものと思われ、周辺から混入した可能性が高い。

**所属時期** 埋土の色調から近世と考えられる。

### SB 03（第 17 図）

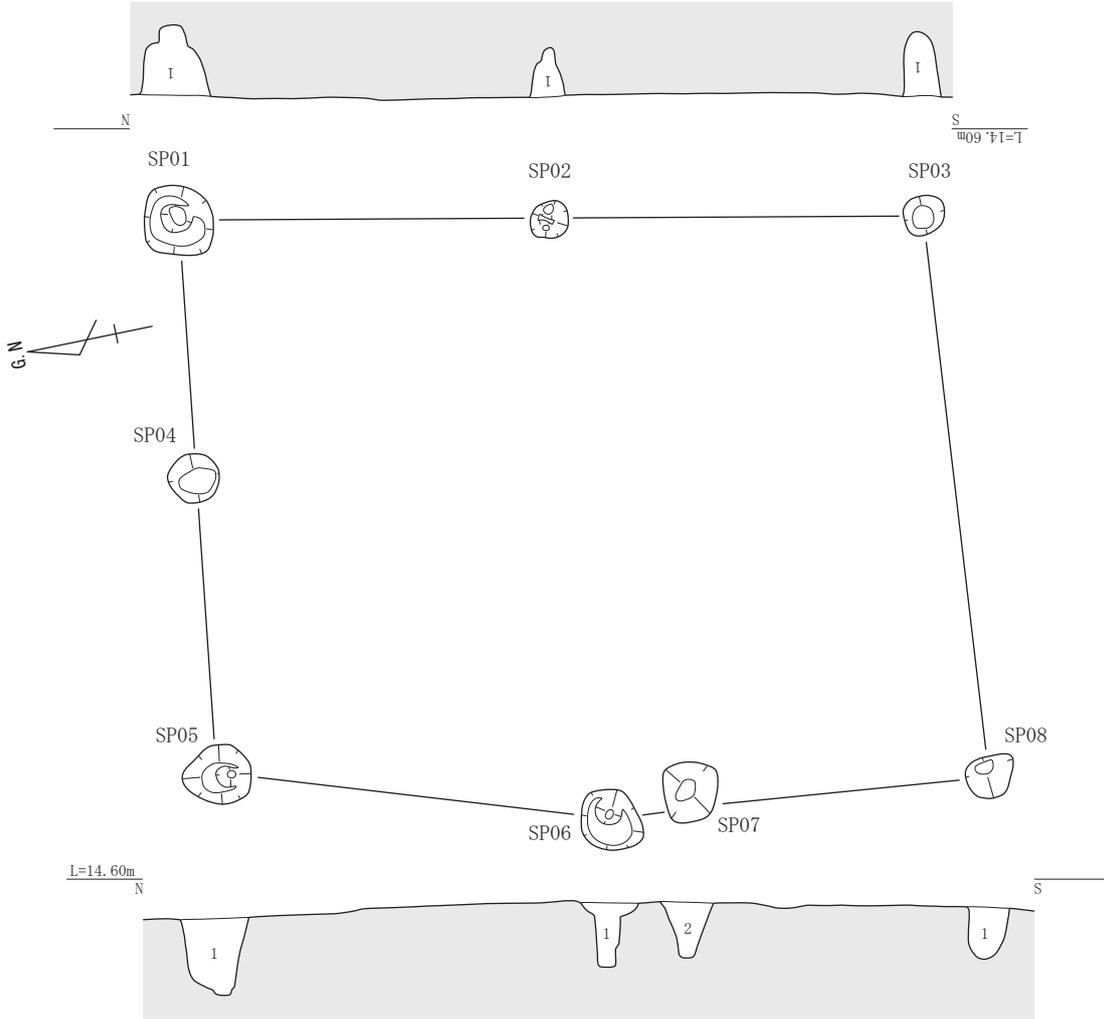
調査区北部西側で検出した 1 間×1 間 (1.3 m×1.2 m) の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-7°-Eであり、条里地割に沿っている。ピットの埋土は灰黄褐色シルトである。ピットから遺物は出土しなかった。

**所属時期** 埋土の色調から近世と考えられる。



第 16 図 SB01 平・断面図 (S=1/40・1/10) と出土遺物 (S=1/8)

SB02

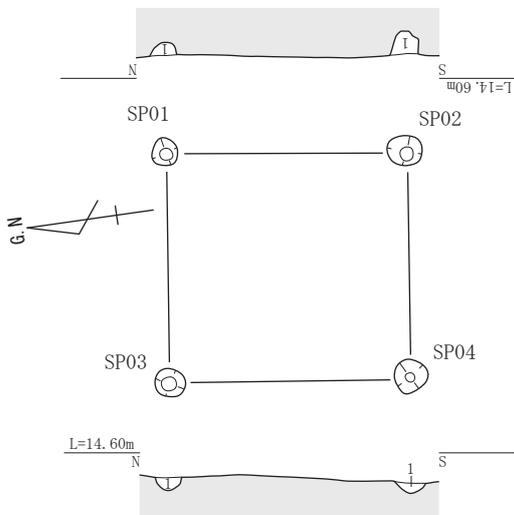


- 1. 10YR4/2 灰黄褐シルト
- 2. 10YR3/3 暗褐シルト

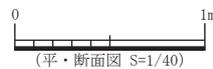
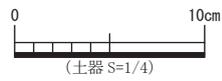
SB02-SP05



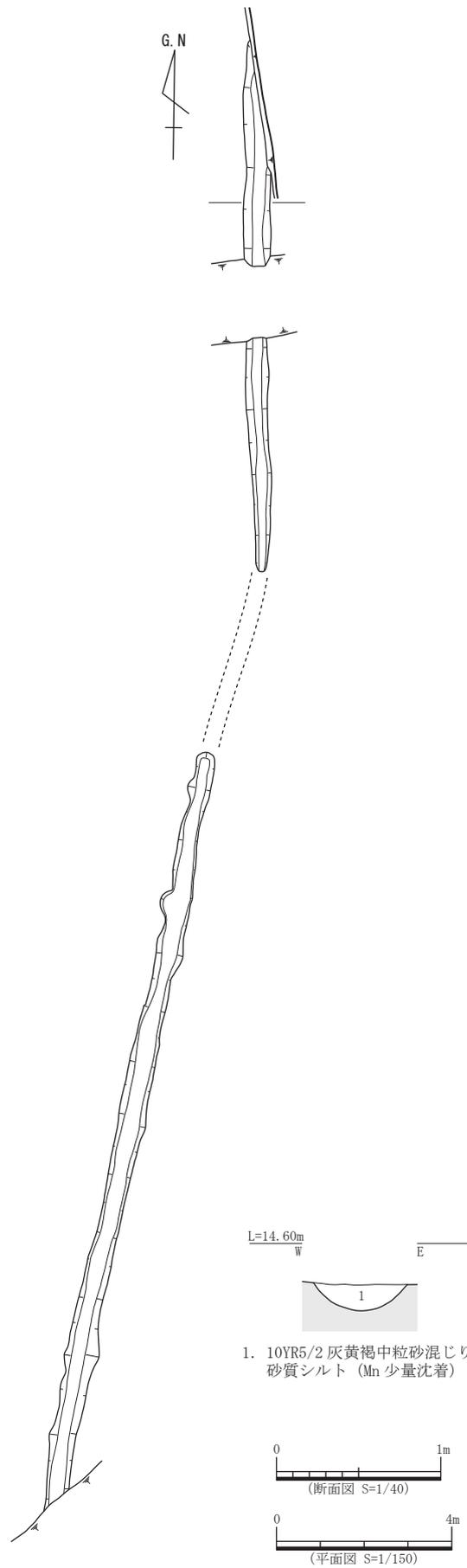
SB03



- 1. 10YR4/2 灰黄褐シルト



第 17 図 SB02, 03 平・断面図 (S=1/40) と出土遺物 (S=1/4)



第 18 図 SD03 平・断面図 (S=1/150・1/40)

### SD 03 (第 18 図)

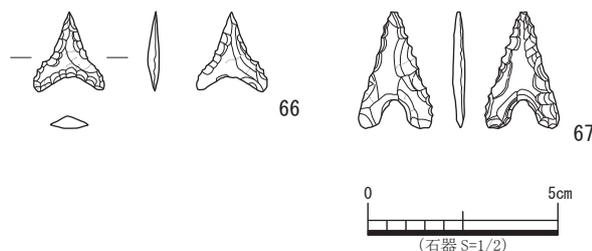
調査区北部東端から南部中央で検出した南北方向の溝で、幅約0.4～0.6 m、深さ約0.1～0.2 mである。調査区北部では南北方向だが、途中で攪乱に削平され、その間にわずかに西方向へ曲がる。断面は半円状で、埋土は灰黄褐色中粒砂混じりシルトの単層である。底面の高さは北側の方が高く南側が低くなっており、北から南に向かって流れる。遺構からは、近世以降の陶磁器片、土師質土器片、瓦片、豊島石製石製品などが出土した。

所属時期 出土遺物から近世である。

### (3) 遺構検出・攪乱

出土遺物 (第 19 図)

66・67 はサヌカイト製石鏃である。



第 19 図 遺構検出・攪乱出土遺物 (S=1/2)

### 参考文献

- 片桐孝浩 1992 「考察 ー古代から中世にかけての土器様相ー」『川津元結木遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 佐藤竜馬 1993 「香川県十瓶山窯跡群における須恵器編年」『関西大学考古学研究室開設四十周年記念 考古学論叢』関西大学
- 佐藤竜馬 2000 「中世林地域の村落景観」『空港跡地遺跡Ⅳ 第 1 分冊』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社
- 佐藤竜馬 2016 「讃岐における古代～中世土器編年をめぐる基礎作業 (1)」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 26 年度』香川県教育委員会

## 第IV章 まとめ

今回の発掘調査では、弥生時代後期の遺構および古代の遺物を中心とする包含層および近世の遺構を検出した。以下、弥生時代後期および古代について周辺の調査結果を踏まえて概観する。

### (1) 弥生時代後期

土坑1基と溝2条と自然流路1条を検出した。本調査区の周辺で行われた発掘調査成果によると、調査区北側の空港跡地遺跡C地区（香川県埋文センター編1996）およびD地区（香川県埋文センター編2004）・F地区（香川県埋文センター編2000）では多数の弥生時代後期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、溝や土坑などが検出されており、本調査区も付近に広がる集落の一端を担っていたと考えられる。

### (2) 8～9世紀

包含層中で8世紀後葉～9世紀中頃の須恵器が多量に出土した。本調査区の周辺で行われた発掘調査成果によると、調査区北側の空港跡地遺跡C地区（香川県埋文センター編1996）およびD地区（香川県埋文センター編2004）では当該期の掘立柱建物跡や井戸跡、溝、土坑が検出されており、本調査区で出土した須恵器はこれらの集落に帰属するものと考えられる。

また、周辺の上林遺跡では8世紀末～9世紀代の条里地割に沿う溝が数条検出され（香川県埋文センター編2019）、遺跡周辺では8世紀末頃には条里型地割が施工されていたことが明らかになっている。

### 参考文献

（財）香川県埋蔵文化財調査センター編1996『空港跡地遺跡Ⅰ』香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社

（財）香川県埋蔵文化財調査センター編2000『空港跡地遺跡Ⅳ』香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土地開発公社

香川県埋蔵文化財センター編2004『空港跡地遺跡Ⅶ』香川県教育委員会・香川県土地開発公社

香川県埋蔵文化財センター編2019『上林遺跡』香川県教育委員会

第1表 土器観察表①

挿図 番号	報告書 番号	遺構名 /層位	種類	器種	部位	法量(cm)			調整		色調	胎土	焼成	備考
						口径	底径	器高	外面	内面				
8	1	包含層	須恵器	杯蓋	天井部	—	—	[1.9]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N7/灰白 [内面]N8/灰白	精良 1.5mm以下の長石・ 黒色粒含む	良好	
8	2	包含層	須恵器	杯蓋	天井部	—	—	[2.0]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]2.5Y6/1黄灰 [内面]10YR7/2にぶい黄橙	精良 2mm以下の長石・赤 色粒含む	良	
8	3	包含層	須恵器	杯蓋	天井部	—	—	[1.7]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N7/灰白 [内面]N7/灰白	精良 1mm以下の石英・長 石含む	良好	
8	4	包含層	須恵器	杯蓋	天井部	—	—	[1.4]	摩滅	摩滅	[外面]2.5Y7/3浅黄 [内面]2.5Y7/2灰黄	精良 1mm以下の長石含む	不良	
8	5	包含層	須恵器	杯蓋	口縁部	(16.2)	—	[1.8]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]10YR7/1灰白 [内面]2.5Y7/1灰白	精良 2mm以下の石英・長 石含む	良好	
8	6	包含層	須恵器	杯蓋	口縁部	(16.2)	—	[1.2]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]5YR6/1褐灰 [内面]N4/灰	精良 1.5mm以下の長石含 む	良好	
8	7	包含層	須恵器	杯蓋	口縁部	(15.4)	—	[1.1]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N5/灰 [内面]N5/灰	精良 2mm以下の長石含む	良好	
8	8	包含層	須恵器	杯蓋	口縁部	(16.1)	—	[1.4]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N7/灰白 [内面]N6/灰	精良 2mm以下の石英・長 石含む	良好	外面口縁 部：自然 袖付着
8	9	包含層	須恵器	杯蓋	口縁部	(14.8)	—	[0.8]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N6/灰 [内面]N6/灰	精良 1mm以下の長石含む	良好	
8	10	包含層	須恵器	杯蓋	口縁部	—	—	[2.0]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]2.5Y7/1灰白 [内面]2.5Y7/1灰白	精良 2mm以下の長石、 3mm以下の石英含む	良好	
8	11	包含層	須恵器	杯蓋	口縁部	—	—	[1.7]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N7/灰白 [内面]N7/灰白	精良 1mm以下の長石・黒 色粒含む	良好	
8	12	包含層	須恵器	杯蓋	口縁部	—	—	[1.7]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N4/灰 [内面]N5/灰	精良 1mm以下の長石含む	良好	
8	13	包含層	須恵器	杯蓋	口縁部	—	—	[1.2]	摩滅	摩滅	[外面]5Y8/1灰白 [内面]5Y8/1灰白	精良 1.5mm以下の長石・ 黒色粒含む	良	
8	14	包含層	須恵器	杯身	口縁部	—	—	[2.7]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N6/灰 [内面]N6/灰	精良 1mm以下の石英・長 石含む	良好	
8	15	包含層	須恵器	杯身	口縁部	—	—	[2.7]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]2.5Y7/1灰白 [内面]2.5Y7/1灰白	精良 0.5mm以下の石英・ 長石含む	良好	外面：一 部自然袖 付着
8	16	包含層	須恵器	杯身	口縁部	—	—	[2.7]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N5/灰 [内面]10YR5/1褐灰	精良 2mm以下の長石含む	良好	
8	17	包含層	須恵器	高台付 杯	口縁部 ～底部	(14.1)	(10.2)	4.7	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N5/灰 [内面]N6/灰	精良 0.5mm以下の石英・ 長石含む	良好	貼付高台
8	18	包含層	須恵器	高台付 杯	底部	—	(10.6)	[2.4]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N7/灰白 [内面]N7/灰白	精良 2mm以下の長石含む	良好	貼付高台
8	19	包含層	須恵器	杯	口縁部	(9.8)	—	[4.5]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N4/灰 [内面]N6/灰	精良 1mm以下の長石、 2mm以下の砂粒含む	良好	
8	20	包含層	須恵器	杯	口縁部 ～底部	(12.0)	(8.6)	3.7	回転ナデ・回 転ヘラ切り	回転ナデ	[外面]N5/灰 [内面]N6/灰	精良 2.5mm以下の長石含 む	良好	内外面： 火襷
8	21	包含層	須恵器	杯	口縁部 ～底部	(13.4)	(8.2)	3.2	回転ナデ・回 転ヘラ切り	回転ナデ	[外面]5Y7/1灰白 [内面]5Y7/1灰白	精良 2mm以下の長石含む	良好	内外面： 火襷
8	22	包含層	須恵器	杯	口縁部 ～底部	(13.2)	(8.0)	3.0	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N6/灰 [内面]N6/灰	精良 2mm以下の長石含む	良好	内外面： 火襷
8	23	包含層	須恵器	杯	口縁部 ～底部	—	—	3.5	回転ナデ・回 転ヘラ切り	回転ナデ	[外面]N7/灰白 [内面]N7/灰白	精良 1mm以下の石英・長 石少量含む	良好	内外面： 火襷
8	24	包含層	須恵器	杯	口縁部 ～底部	—	—	[4.0]	回転ナデ・回 転ヘラ切り	回転ナデ	[外面]N6/灰 [内面]N7/灰白	精良 1mm以下の長石含む	良好	内外面： 火襷
8	25	包含層	須恵器	杯	口縁部	—	—	[3.5]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N5/灰 [内面]N5/灰	精良 1mm以下の石英・長 石含む	良好	
8	26	包含層	須恵器	杯	口縁部	—	—	[4.0]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N5/灰 [内面]N6/灰	精良 1mm程度の石英・長 石含む	良好	
8	27	包含層	須恵器	杯	口縁部	(24.2)	—	[6.1]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N5/灰 [内面]N5/灰	精良 2mm以下の長石含む	良好	
8	28	包含層	須恵器	皿	口縁部 ～底部	—	—	2.0	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N8/灰白 [内面]N8/灰白	精良 2mm以下の石英・長 石含む	良好	
8	29	包含層	須恵器	盤	口縁部	(25.0)	—	[3.1]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N7/灰白 [内面]N8/灰白	精良 3mm以下の長石含む	良好	
8	30	包含層	須恵器	壺	口縁部	(17.4)	—	[2.0]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N5/灰 [内面]N5/灰	精良 0.5mm以下の長石・ 黒色粒含む	良好	
8	31	包含層	須恵器	甕	胴部	—	—	[8.8]	平行タタキ後 ナデ	青海波文の当 て具痕	[外面]5PB7/1明青灰 [内面]5PB6/1青灰	精良 1.5mm以下の長石・ 黒色粒含む	良好	
8	32	包含層	須恵器	甕	胴部	—	—	[9.5]	平行タタキ後 ナデ	青海波文の当 て具痕	[外面]N5/灰 [内面]N6/灰	精良 2mm以下の長石・赤 色粒含む	良好	
8	33	包含層	黒色土器	椀	底部	—	(9.0)	[1.4]	摩滅	摩滅	[外面]10YR8/4浅黄橙 [内面]N4/灰	精良 1mm程度の石英・長 石含む	良	
8	34	包含層	土師器	甕	口縁部	—	—	[2.9]	摩滅	摩滅	[外面]2.5Y7/3浅黄 [内面]10YR6/3にぶい黄橙	普 3mm以下の長石、 4mm以下の石英、 7mm以下の砂粒含む	良	
8	35	包含層	土師器	甕	口縁部	—	—	[3.1]	摩滅	摩滅	[外面]7.5YR6/6橙 [内面]5YR7/6橙	普 4mm以下の石英・長 石含む	良	
9	36	包含層	土師器	土釜	口縁部	(29.6)	—	[3.0]	摩滅	摩滅	[外面]7.5YR6/4にぶい橙 [内面]7.5YR7/4にぶい橙	普 2.5mm以下の石英・ 長石・角閃石・赤 色粒含む	良	

第2表 土器観察表②

挿図 番号	報告書 番号	遺構名/ 層位	種類	器種	部位	法量(cm)			調整		色調	胎土	焼成	備考	
						口径	底径	器高	外面	内面					
9	37	包含層	土師器	土釜	口縁部	—	—	[3.4]	摩滅	摩滅	[外面]7.5YR7/4にぶい橙 [内面]7.5YR7/4にぶい橙	普	1.5mm以下の石英・長石・赤色粒含む	良	
9	38	包含層	弥生土器	甕	口縁部	—	—	[3.2]	摩滅	摩滅	[外面]5YR6/6橙 [内面]7.5YR7/6橙	普	2.5mm以下の石英・長石・角閃石含む	良	
9	39	包含層	弥生土器	高杯	口縁部	—	—	[3.5]	摩滅	摩滅	[外面]7.5YR6/3にぶい褐 [内面]7.5YR5/6明褐	普	2.5mm以下の長石・角閃石・赤色粒含む	良	
9	40	包含層	弥生土器	高杯	脚部	—	(16.4)	[4.3]	ナデ・摩滅	ヘラケズリ・摩滅	[外面]10YR5/4にぶい黄褐 [内面]10YR6/4にぶい黄褐	普	3mm以下の石英・長石・角閃石含む	良	円形透かし1孔
9	41	包含層	弥生土器	壺	口縁部	(13.0)	—	[3.9]	摩滅・凹線文(3条)	指押さえ・摩滅	[外面]2.5Y6/3にぶい黄 [内面]2.5Y6/3にぶい黄	普	4.5mm以下の石英・長石・角閃石・赤色粒含む	良	
9	42	包含層	弥生土器	壺	口縁部	(23.2)	—	[4.8]	摩滅	摩滅	[外面]10YR7/4にぶい黄橙 [内面]10YR7/4にぶい黄橙	普	5mm以下の石英・長石含む	良	
9	43	包含層	弥生土器	製塩土器	胴部	—	—	[4.2]	摩滅	摩滅	[外面]10YR8/4浅黄橙 [内面]10YR8/4浅黄橙	普	2mm以下の石英・長石含む	良	
10	47	SK01	弥生土器	甕	口縁部 ～胴部	(16.0)	—	[13.3]	摩滅	ケズリ・摩滅	[外面]7.5YR7/3にぶい橙 [内面]10YR7/2にぶい黄橙	普	5mm以下の石英・長石多量に含む	良	
14	48	SR01	弥生土器	甕	口縁部 ～胴部	(15.8)	—	(9.2)	摩滅	指頭圧痕・摩滅	[外面]5YR6/6橙 [内面]5YR6/6橙	普	2mm以下の石英・長石・角閃石含む	良	
14	49	SR01	弥生土器	甕	口縁部	(17.2)	—	[4.0]	摩滅	摩滅	[外面]7.5YR5/4にぶい褐 [内面]7.5YR5/4にぶい褐	普	3mm以下の長石・角閃石・赤色粒含む	良	
14	50	SR01	弥生土器	甕	口縁部	—	—	[5.5]	工具痕・摩滅	指頭圧痕・摩滅	[外面]7.5YR5/4にぶい褐 [内面]7.5YR5/4にぶい褐	普	2mm以下の石英・長石・角閃石含む	良	
14	51	SR01	弥生土器	甕	底部	—	(6.2)	[3.0]	ナデ	板ナデ	[外面]7.5YR5/3にぶい褐 [内面]7.5YR5/6明褐	普	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良	
14	52	SR01	弥生土器	甕	底部	—	(6.2)	[3.1]	摩滅	摩滅	[外面]10YR4/1褐灰 [内面]10YR7/2にぶい黄橙	普	3mm以下の石英・長石含む	良	
14	53	SR01	弥生土器	短頸壺	口縁部	—	—	[3.6]	摩滅	摩滅	[外面]7.5YR7/6橙 [内面]10YR7/4にぶい黄橙	普	2mm以下の長石・4mm以下の石英含む	良	
14	54	SR01	弥生土器	壺	底部	—	(8.2)	[3.9]	摩滅	摩滅	[外面]10YR7/4にぶい黄橙 [内面]10YR6/2灰黄褐	普	4mm以下の石英・長石を多量に含む	良	
14	55	SR01	弥生土器	高杯	口縁部	—	—	[3.5]	摩滅	摩滅	[外面]7.5YR6/4にぶい橙 [内面]7.5YR6/4にぶい橙	普	3mm以下の石英・長石・角閃石含む	良	
14	56	SR01	弥生土器	高杯	脚部	—	(14.5)	[4.3]	ナデ	ナデ・ケズリ	[外面]7.5YR6/4にぶい橙 [内面]7.5YR5/4にぶい褐	普	3mm以下の石英・長石・角閃石含む	良	
14	57	SR01	弥生土器	高杯	脚部	—	(15.4)	[4.1]	摩滅	摩滅	[外面]10YR5/4にぶい黄褐 [内面]7.5YR5/4にぶい褐	普	2mm以下の長石・角閃石・赤色粒含む	良	
14	58	SR01	弥生土器	鉢	口縁部	—	—	[3.0]	摩滅	摩滅	[外面]7.5YR5/4にぶい褐 [内面]7.5YR6/4にぶい橙	普	1mm以下の角閃石、2mm以下の長石・砂粒含む	良	
14	59	SR01	弥生土器	不明	口縁部	(16.8)	—	[2.2]	摩滅	摩滅	[外面]7.5YR7/4にぶい橙 [内面]7.5YR7/4にぶい橙	普	4mm以下の石英・長石含む	不良	
14	60	SR01	弥生土器	ミニチュア土器	ほぼ完形	4.2	(1.6)	6.4	ナデ	摩滅・剥離	[外面]2.5Y7/2灰黄 [内面]2.5Y7/2灰黄	普	2mm以下の石英・長石含む	良	外面：黒斑あり
15	63	ピット	土師質土器	足釜	脚部	長さ [7.1]	幅 2.5	厚さ 2.3	ナデ・指頭圧	—	7.5YR6/4にぶい橙	普	3mm以下の石英・長石・角閃石含む	良	
17	65	SB02-SP05	須恵器	高台付杯	底部	—	(7.3)	[1.4]	回転ナデ	回転ナデ	[外面]N6/灰 [内面]N6/灰	精良	0.5mm以下の長石含む	良好	貼付高台

第3表 石器観察表

挿図 番号	報告書 番号	遺構名/ 層位	種類	機種	石材	法量(cm)				備考
						最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	
9	44	包含層	石器	石鏃	サヌカイト	3.8	2.45	0.45	4.8	
9	45	包含層	石器	石鏃	サヌカイト	3.4	1.6	0.5	1.9	
9	46	包含層	石器	石鏃	サヌカイト	1.9	1.55	0.35	0.9	
14	61	SR01	石器	石庖丁	サヌカイト	5.35	6.8	0.7	33.7	
14	62	SR01	石器	石鏃	サヌカイト	1.8	1.55	0.25	0.5	
16	64	SB01-SP03	石製品	石臼	豊島石	15.55	15.3	8.5	2000	
19	66	遺構検出	石器	石鏃	サヌカイト	2.1	1.9	0.3	0.6	
19	67	攪乱	石器	石鏃	サヌカイト	3.1	1.95	0.35	1.3	



# 写真図版

---

---



SB01-SP03 底面石臼検出状況



調査区北側完掘状況



調査区南側完掘状況



SR01 断ち割りトレンチ完掘状況



SR01 西側壁面土層



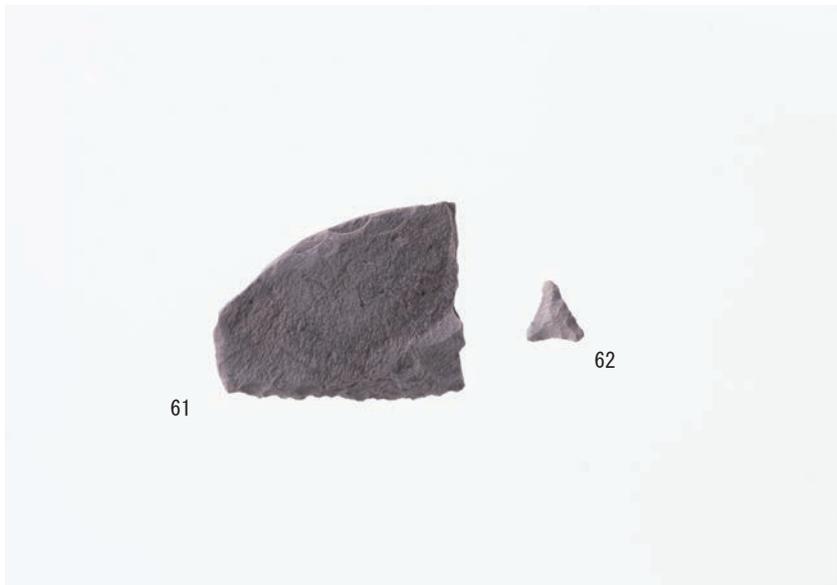
包含層出土須恵器



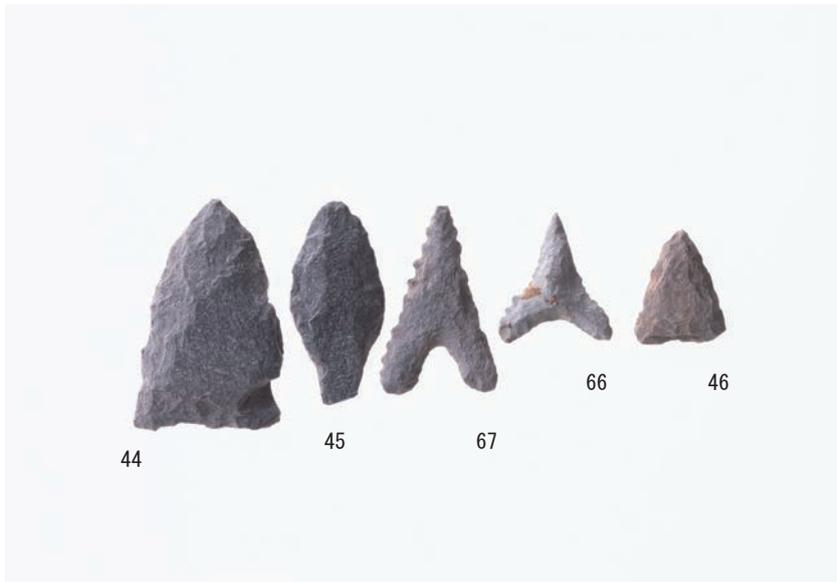
包含層・SR01 出土弥生土器



SD01 出土ミニチュア土器



SR01 出土石器



包含層・遺構検出・攪乱出土石鏃



SK01 完掘状況



SK01 断面



SK01 出土遺物



SB01-SP08 断面



SB02-SP06 断面



SD01 完掘状況



SD01 断面



SD02 完掘状況



SD02 断面



SD03 完掘状況



SD03 断面



近世ピット群完掘状況①（北東から）



近世ピット群完掘状況②（東から）



近世ピット群出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	くこうあとちいせき（なかばやしちく）							
書名	空港跡地遺跡（中林地区）							
副書名	林町事務所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第 253 集							
編著者名	梶原 慎司							
編集機関	高松市教育委員会							
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目 8 番 15 号 TEL087-839-2660							
発行年月日	西暦 2024 年 5 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / ''	東経 ° / ' / ''	発掘期間	発掘 面積	発掘 原因
		市町村	遺跡番号					
くこうあとちいせき 空港跡地遺跡 なかばやしちく (中林地区)	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市 はやしちょう 林町	37201	10629	34° 17' 35''	134° 04' 19''	2023. 3. 29 ～ 2023. 5. 23	730 ㎡	事務所建設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
空港跡地遺跡	集 落 跡	弥生時代後期		土坑・溝・流路		弥生土器		
		近世		ピット・溝		土師質土器		
要 約	<p>弥生時代後期の土坑 1 基・溝 2 条・自然流路 1 条を確認した。周辺で確認されている弥生時代後期の竪穴建物跡等から構成される集落の一端を担っていたと考えられる。</p> <p>古代の遺物を含む包含層を確認し、8 世紀後葉～9 世紀中頃の須恵器が多く出土した。</p> <p>近世のピット群・掘立柱建物跡 3 棟・溝 1 条を確認した。周辺に広がる居住域の一部であると考えられる。</p>							

林町事務所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

## 空港跡地遺跡（中林地区）

令和 6 年 5 月 31 日

編 集 高松市教育委員会  
高松市番町一丁目 8 番 15 号  
発 行 (株)ホンダパーツ西南  
高松市教育委員会  
印 刷 有限会社 中央ファイリング

